



ふゆのきよてんまつり (令和6年2月18日)



「南外中学校×堀井徳五郎翁」昔ばなし伝承事業



「堀井徳五郎翁の世界」ミニ講演会 (令和5年8月25日)



みんなのきよてんまつり (令和5年11月23日)

地域資源をまちづくりに生かす

- 南外地域「彩色千輪プロジェクト」事業紹介 -

公共施設の利活用と住民参加の地域づくりを一体的に進める「南外地域『彩色千輪プロジェクト』(地域拠点利活用活性化事業)」。令和5年度は、地域で忘れさられつつあった先人の功績に光を当てた新たな取り組みを実施したほか、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことを受け、地域住民が集い、交流し合える場づくりにも力を入れました。

彩色千輪プロジェクトは、市内の公共施設の中から地域ごとに1カ所を「地域の拠点」に設定し、その施設を利活用することで地域を活性化させようとする取り組みです。南外地域では、地域協議会での話し合いを経て、**南外ふるさと館・南外民俗資料交流館・南外さいかい市**の3施設が隣接するエリアを「**地域の拠点**」(以下、「**拠点3施設**」)に位置づけました。これらは、温泉

に入ったり買い物をしたりできる施設で、普段から一定の集客力があるため、もう一工夫することでさらなるにぎわいの創出が期待できると考えられていました。

令和4年には、拠点3施設の新たな使い道や改善案などを地域住民に募りました。地元中学生から市と学校が合同で実施した学習活動を通じて拠点3施設をまちづくりに生かすためにやるべきことなどを提案し

てもらったほか、今後まちづくりの中核を担う子育て世代の地域住民を対象にアンケート調査を実施。幅広い年齢層から寄せられた意見やアイデアなどを基に拠点3施設の利活用策をまとめた事業計画を策定し、令和5年度から本格的に実施しています。

2ページからは、令和5年度に実施した「彩色千輪プロジェクト」事業の取り組みを紹介します。



墨絵風に仕上げた紙芝居の発表会(令和5年11月17日)



「大仙民話の会」が方言での昔語りを指導(令和5年10月21日)



イラスト制作のコツを学ぶ学習(令和5年7月16日)

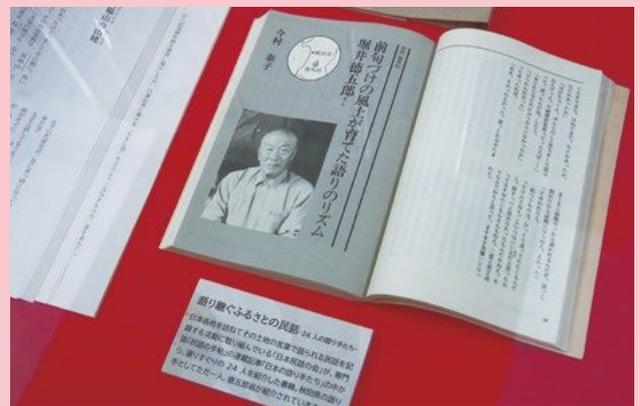
「南外中学校×堀井徳五郎翁」昔ばなし伝承事業

南外中2年生16人が旧南外村の語り部・堀井徳五郎がのこした昔ばなし「長福山の山姥(ちょうふくざんのやまんば)」を原作にした紙芝居を制作しました。南外支所が地元中学生に紙芝居づくりを通じて地域文化への理解を深め、郷土愛を高めてほしいと企画したもの。中学生は制作過程で、元大仙市地域おこし協力隊員でイラストレーターの岡田智美さんから作画のコツを、「大仙民話の会」の皆さんからは方言で書かれたシナリオの読み上げ方などを学び、11月17日には完成した紙芝居をつかって地域協議会委員や学校評議員などを前に発表会を行いました。紙芝居イラストは現在、南外民俗資料交流館に展示しています。



「堀井徳五郎翁の世界」ミニ講演会(8月25日)

「昔ばなしの語り部・堀井徳五郎翁」の功績を後世に伝えるための顕彰事業の一環として実施した講演会。日本語したことば協会理事でフリーアナウンサーの来栖史江さんによる講演のほか、「大仙民話の会」による昔語りが行われ、市内外から参加した約30人が昔ばなしの世界に浸りました。来栖さんは、児童文学作家、松谷みよ子(1926-2015)を研究する過程で、松谷の童話作品「やまんばのにしき」の原話である昔ばなし「長福山の山姥」と、それを口頭伝承した堀井徳五郎に興味をもち、独自に調査・研究をしています。講演では来栖さんが「堀井氏がのこした昔語りは素晴らしく、これからの人たちにもっと知ってほしい」と語りました。



堀井徳五郎翁資料展示コーナー開設

昔ばなしの語り部として一部の専門家には知られていた堀井徳五郎ですが、没後約半世紀が経過し、地元住民の記憶の風化と資料の散逸が懸念されていました。南外支所では、課題解決策のひとつとして、「なんがい支所だより」等を通じて堀井氏に関連する資料提供を地域住民等に呼びかけ、集まった写真や資料を展示するコーナーを南外庁舎と南外民俗資料交流館に設置しました。堀井氏直筆の日記ノートや昭和30年代に秋田魁新報で連載された「徳五郎むかし話」の切り抜きなどを展示。また、伊藤寛雄さん(湯ノ又)が電子データ化した堀井氏の肉声による昔語りを来館者が自由に試聴できるコーナーも設けています。



市内業者からデザインの基本を学ぶ(令和5年9月14日)



なながい地域祭での販売実践(令和5年10月29日)



FM はなびの番組に出演して学習活動をPR(令和5年10月31日)

もっと売り込め!「南外さいかい市ブランドスイーツ」

南外さいかい市の商品販売を通じて、普段は南外さいかい市の利用機会がほとんどない地元中学生や保護者世代の比較的若手の住民に、地域の課題解決に取り組む高齢住民の活動への理解を深め、応援してもらおうと企画したものです。南外中学校1年生13人を対象に実施しました。中学生が南外さいかい市の商品販売用ペーパーバッグ(紙袋)をデザイン・組み立て。「なながい地域祭」(10月29日開催)の会場で、自分たちがつくったペーパーバッグを使ってお菓子の詰め合わせを販売しました。また、販売にあたっては、中学生が事前にFM はなびの情報番組に出演し、本事業のPRを行っています。



拠点3施設の利便性向上とアクセス改善

地域の公共施設を利活用して地域の活性化につなげる「彩色千輪プロジェクト」では、地域住民の皆さんはもちろん、南外以外にお住まいの方からも南外の公共施設に足を運んでもらうことを狙いとしています。そのため、来訪者が南外ふるさと館・南外民俗資料交流館・南外さいかい市が並ぶエリアにスムーズにアクセスでき、それぞれの施設で快適に過ごせるようにするために環境改善を図りました。国道105号と県道35号の交差点にこれらの公共施設への案内表示看板を新設したほか、南外ふるさと館の駐車場区画線を修繕。また、南外ふるさと館を管理する民間事業者の協力と同館のwi-fi環境を整備することができました。



南外さいかい市健康サロン(毎月1回実施中)

令和2年度から市・社会福祉協議会南外支所・南外さいかい市の3者連携で実施しているサロン事業です。主に65歳以上の地域住民の方が対象で、健康づくりや介護予防、認知症予防などをテーマに、南外ふるさと館を会場にして運動や軽スポーツを楽しむ場を提供しています。1月に実施したサロンでは話題の「eスポーツ」を導入し、地元の子どもたちと高齢者が交流する場をつくりました。また、南外さいかい市は、9月から毎月1回、南外民俗資料交流館で80歳以上の一人暮らしの方や高齢世帯の方を対象に会食をメインにしたサロン事業「どやぐのたまり場」をスタート。高齢者の居場所づくりを図っています。



「地域の拠点」PR イベント (11月23日・2月18日)

拠点3施設に地域住民の皆さんからもっと足を運んでもらおうと、そのきっかけづくりとして企画したイベント。南外さいかい市が定期的実施してきた「民俗行事の再現」を軸に、ステージパフォーマンスやフリーマーケット、ジビエ料理の試食会などを盛り込み、地域住民の皆さんに楽しんでもらえる催しに仕立て、令和5年度は秋・冬の2回実施しています。

11月に開催した「みんなのきよてんまつり」では、音楽グループ「フレイリックムジーク」の小松美岐さん(大杉)のエレクトーン演奏や「大仙民話の会」語り部の昔語りのほか、大仙市在住のNHKのど自慢ファイナリスト7人による歌のパフォーマンスなど、市内在住で一芸に秀でた方に出演いただき、イベントを盛り上げてもらいました。また、堀井徳五郎の昔ばなし「長福山の山姥」に登場する「熊汁」(熊肉を使った鍋料理)の試食会も行われ、約50食が来場者に振舞われました。

また、2月に開催した「ふゆのきよてんまつり」は、かまくら体験やどんと焼きなどを中心に毎年実施していた「南外さいかい市ふゆまつり」に、人気マジシャン、ブラボー中谷さんのマジックショーや協賛企業の協力によるプレゼント抽選会、地域の歴史や災害の記録などをまとめた動画をつかったミニ上映会を加えて集客力を高めた結果、たくさんの来場者でにぎわいました。



【写真の説明】

[左上] 大仙民話の会による昔語り。参加者は地域に伝わる昔ばなしに耳を傾けました。[右上]「のど自慢オンステージ!」には、令和5年に大仙市で開催されたNHKのど自慢のファイナリストで市内在住6人が出演(中央)[左下] 南外ふるさと館で行われた「ブラボー中谷マジックショー」は立ち見が出るほどの大盛況。



もっと売り込め! 「南外さいかい市ブランドスイーツ」
ペーパーバッグデザインコンテスト結果 (→関連記事3ページ)

第1位…市村恵望さん(前列右端・11票)、第2位…亀岡つたさん(前列左から2人目・7票)、菊地未優さん(同3人目・同)、第4位…菊地彩晴さん(同4人目・4票)、第5位…高橋瑛心さん(3票)

※南外地域祭会場と南外さいかい市店舗に投票箱を設置して得票数で順位付けしました。投票いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。



善意の気持ち ありがとう
郵便局長会がプロジェクト寄贈

東北地方郵便局長会仙北中央部会からプロジェクトとスクリーンを寄贈いただきました。

寄贈品は彩色千輪プロジェクト事業(「きよてんまつり」での上映会やレトロゲーム体験会)や管内で行われる会合、研修会などで使用しています。